令和6年度第12回定例
松本市教育委員会会議録

松本市教育委員会

令和6年度第12回定例松本市教育委員会会議録

令和6年度第12回定例松本市教育委員会が令和7年3月21日午後1時00分教育委員室に招集された。

令和7年3月21日（金）

議 事 日 程

令和7年3月21日午後1時00分開議

第1 開 会

第2 教育長挨拶

第3 議 事

[議案]

- 第1号 松本市教育委員会組織規則の一部改正について
- 第2号 松本市教育委員会事務委任、専決、代決規則の一部改正について
- 第3号 教育委員会の権限に属する事務の一部の補助執行に関する規則の一部改正について
- 第4号 松本市教育次長及び教育監事務分担等規則の一部改正について
- 第5号 松本市教育委員会公印規則の一部改正について
- 第6号 松本市教育委員会職員の職及び職種名に関する規則の一部改正について
- 第7号 松本市教育委員会職員の職の兼務に関する規程の一部改正について
- 第8号 松本市教育委員会職員の勤務時間等の特例に関する規程の一部改正について
- 第9号 松本市教育委員会の所管に係る松本市公共施設案内・予約システムの利用等に関する規則の一部改正について
- 第10号 学都松本推進協議会設置要綱の廃止について
- 第11号 松本市立小中学校小規模特認校制度実施要綱の一部改正について
- 第12号 松本市立小学校及び中学校の通学区域外就学に関する事務取扱要綱の一部改正について
- 第13号 松本市立学校の学校医等の委嘱及び報酬に関する規則の一部改正について
- 第14号 松本市教育委員会と長野県教育委員会との教員出向に関する協定の締結について
- 第15号 松本市学校給食実施規則の一部改正について
- 第16号 地区公民館長の任命について【非公開】
- 第17号 松本市学校運営協議会委員及び地域学校協働活動推進員の委嘱について【非公開】
- 第18号 松本市青少年ホーム条例施行規則の制定について
- 第19号 松本市青少年ホーム条例施行規則の廃止について
- 第20号 まつもと文化遺産の認定について
- 第21号 松本市文化財審議委員会の組織及び運営等に関する規則等の廃止について
- 第22号 松本市立博物館条例施行規則の制定について
- 第23号 松本市立博物館条例施行規則等の廃止について

第24号 松本市立小学校、中学校及び幼稚園職員等の勤務時間等に関する規程の一部
改正について

[報告]

- 第1号 令和7年松本市議会2月定例会の結果について
- 第2号 令和6年度教育委員会各課事務事業報告について
- 第3号 松本市教育委員会と松本市教育会との教育に関する連携協定に基づく事業実績
について
- 第4号 令和6年度松本市教職員研修実施報告について
- 第5号 令和6年度オンライン教育支援センターの利用状況等について
- 第6号 各種学校への補助金交付に関わる視察調査結果について【非公開】
- 第7号 松本市安曇資料館について【非公開】

[その他]

〔出席委員〕

教 育 長	伊 佐 治 裕 子
教育長職務代理者	小 柳 廣 幸
教 育 委 員	佐 藤 佳 子
//	春 原 啓 子
//	福 澤 崇 浩

〔出席職員〕

教 育 次 長	赤 羽 志 穂
教 育 監	坂 口 俊 樹
教 育 政 策 課 長	小 西 え み
教育研修センター長	大久保 和 彦
学 校 教 育 課 長	清 沢 卓 子
学 校 給 食 課 長	百 瀬 功 三
生涯学習課長 兼	
中央公民館長	廣 田 圭 男
中 央 図 書 館 長	藤 森 千 穂
文 化 財 課 長	田多井 用 章
西部4地区担当課長	遠 藤 守
城郭整備担当課長	竹 内 靖 長
博 物 館 長	加 藤 孝
行政管理課総務・行革担当係長	山 崎 守 雄
学校教育課学務担当係長	牧 垣 孝 一

〔事務局〕

教育政策課	
教育政策担当係長	伏 見 宏 美
教育政策担当係長	降 籬 基
教育政策担当主査	竹 内 賢

《開会宣言》 午後1時00分

伊佐治教育長は令和6年度第12回定例松本市教育委員会の開会を宣言した。

教育長 私と小柳職務代理が出席する最後の定例教育委員会になります。改めまして本当に感慨深いものがあります。委員の皆さんにもご心配をいただきましたが、17日の議会最終日に人事案件は無事可決されました。反対された会派の皆様も、「教育委員会がこれまで取り組んできたことを高く評価するので、あと2年の任期を務めてほしいことから反対します」ということで、さまざまなお批判をいただきましたが、真摯に受け止めて今後に生かしていければと思います。

同じく最終日に議決になった、教育委員会の事務の特例に関する条例の一部改正、博物館と文化財課を市長部局に移すことに関して、反対の意見を述べられた方が何名かいらっしゃいました。教育委員会でも事前にご協議をいただいて、例えば、博物館が無料化されても効率的な運営だけにプライオリティを置いて大切なことをないがしろにしないでほしいということは、教育委員会の意見としてお伝えしましたが、やはり教育施設として、教育委員会で合議制の中で民主的な運営をしてほしいというお気持ちもあるのだと思います。議員の皆さんは市民の代表ですので、文化観光部に移った後も重きを置かなくてはいけないと思っています。

私も、4月1日から副市長に就任した後、教育委員会と文化観光部も担当させていただくことになるので、職務の中できちんとその辺を担保していきたいと思っています。教育委員会でも、ぜひこれからの活動を見守っていただき、もし気になる点があれば遠慮なくおっしゃっていただいて、市長と協議をしていくことを大切にしていだければと思っております。

本当にこの4年間、教育委員の皆さんに助けられてばかりでした。大変なこともありましたけれども、1つずつ、最後は教育委員の皆さんに相談をして、自分の決断といいますか、気持ちを固めることができたことは、ほかの部局の部長として意思決定するときにはないので、皆さんが後押ししてくれたり反対してくれたりということがあると、安心して最終決断をすることができました。本当に心から感謝したいと思います。

職務代理からも一言いただければと思います。お願いします。

小柳委員 ありがとうございます。自分がこういう任務に就いたことで、皆さん方と

お知り合いになることができ、本当によかったなと思っております。自分は思っていることをうまく人に伝えられないという致命的な欠陥もあり、加えてあまり協調性がない人間なので、発言の中で不愉快な思いをさせたこともあって、申し訳なく感じております。

自分の人生を1年に例えると、白秋の終わりから玄冬に入っておりますので、先は見えてきた感じなのですが、それでも青空を見上げるときのさわやかさや、夏の太陽に照らされた熱き情熱も持ちながら生きていきたいと思っております。

次の教育長は、伊佐治副市長のバックアップのもとに推進できるのではないかなと期待しているところです。本当に安心しながら、すっきりと終えさせてもらいます。今後はニュートラルの立場で、「教育」の2文字から離れられると思っております。どうもお世話になりました。ありがとうございました。

教育長 ありがとうございました。

先ほど、会議に入る前に、一般職の人事異動の内示がありました。課長以上のところだけ最初にご報告をしておきたいと思います。

赤羽次長からお願いいたします。

教育次長 ご承知のとおり、坂口教育監は丸ノ内中学校校長になられ、県教委の山名先生がおいでになります。

教育政策課長と教育研修センター長は残留です。

学校教育課長は農業委員会事務局長として異動され、後任として中央図書館の内山真由美課長補佐が、併せて特別支援学校設置準備室長も兼務することになります。

学校教育課学校施設担当課長ですが、水道局営業課給排水設備担当課長として異動されます。学校教育課は施設担当課長が減になりますが、その代わり係長級の方が学校施設担当に来る形になりますので、学校教育課長が施設担当も見る形になります。

それから、学校給食課長ですが、廃棄物対策課長として異動されます。後任は公園緑地課の布山明彦課長です。

生涯学習課長と中央図書館長は残留です。

文化財課と博物館は文化観光部に移りますが、文化財課長、博物館長とも残留です。文化財課西部4地区担当課長は公共用地課長に移られ、後任には水道

局営業課給排水設備担当の田多井清純課長が来られます。

文化財の城郭整備担当は松本城整備課になりますが、竹内課長が松本城整備課長事務取扱になり、併せて文化観光部次長として、松本城整備課と文化財担当を担当する次長に就任されます。以上です。

教育長 詳しくは、改めて事務局からメールでお知らせいたします。

それでは、会議録について、令和6年度第10回定例教育委員会と第11回定例教育委員会、第3回臨時教育委員会と第4回臨時教育委員会、以上4点の会議録について、承認ということによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 ありがとうございます。

《署名委員の氏名》

教育長 本日の会議録の署名委員ですが、春原委員と福澤委員にお願いいたします。

本日の議案ですが、議案24件、報告7件ということで大量の案件がありますので、どうぞよろしくお願いします。

なお、非公開の案件がございます。地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、人事に関する事件、その他の事件について出席者の3分の2以上の多数で議決したときは、公開しないことができると規定されています。議案第16号と第17号は人事案件のため、報告第6号は学校法人が公開していない情報を含むため、報告第7号は、市内部における検討、協議に関する情報であり、公開することにより率直な意見交換や市民の間に混乱を生じさせてしまう恐れがあるため、非公開とすることによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、この4件は最後に協議することといたします。

<議案第1号> 松本市教育委員会組織規則の一部改正について

教育政策課長 説明

教育長 ただいまの説明に関しまして、ご質問、ご意見はありますでしょうか。今回大きな組織改正があったということで、それに伴う改正となります。こちらはよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、議案第1号については承認としたいと思います。

<議案第2号> 松本市教育委員会事務委任、専決、代決規則の一部改正について

教育政策課長 説明

教育長 ただいまの説明に対して、何かご質問はありますか。

 それでは、議案第2号についてもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、承認としたいと思います。

<議案第3号> 教育委員会の権限に属する事務の一部の補助執行に関する規則の一部改正
 について

教育政策課長 説明

春原委員 「こども部」から「こども若者部」に変わるいきさつを説明してください。

教育政策課長 行政改革により、現在のこども部に、若者支援を担当する「若者参画課」が
 新しく加わり、こども若者部になります。

教育長 以前、私がこども部長を務めていたときは、こどもは0歳から18歳までと
 言っていましたが、こども基本法が令和5年4月に施行されて、その中で「こ
 ども」の定義は「心身の発達の過程にある者」とされて、18歳で途切れない
 ように支援をしていくことが趣旨として法律に盛り込まれました。昨年4月に
 オープンしたインクルーシブセンターの設置を定めた「松本市発達障がい児等
 の支援に関する条例」でも、同じように「こども」の定義を規定しなおして、
 対象者を広げたことも背景にあるのではないかと思います。

 よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、議案第3号については承認としたいと思います。

<議案第4号> 松本市教育委員会次長及び教育監事務分担等規則の一部改正について

教育政策課長 説明

教育長 こちらについて、何かご質問はありますか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、議案第4号については承認としたいと思います。

<議案第5号> 松本市教育委員会公印規則の一部改正について

教育政策課長 説明

教育長 よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、議案第5号についても承認といたします。

<議案第6号> 松本市教育委員会職員の職及び職種名に関する規則の一部改正について

教育政策課長 説明

教育長 ご質問よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 では、議案第6号についても承認としたいと思います。

<議案第7号> 松本市教育委員会職員の職の兼務に関する規程の一部改正について

教育政策課長 説明

教育長 ご質問、ご意見ありますでしょうか。

兼務の体制自体は変わらないけれども、そのまま市の規則に載せ替えるという
ことですか。

教育政策担当係長 体制は変わりませんが、例えば、あがたの森文化会館と博物館のように、
教育委員会と市長部局に分かれると、「兼務」ではなく「併任」ということにな
ります。ですので、兼務に関する規程からは削除し、併任辞令を出す形で対
応することになります。

教育長 ということですが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 ありがとうございます。それでは、議案第7号についても承認いたします。

<議案第8号> 松本市教育委員会職員の勤務時間等の特例に関する規程の一部改正につい
て

教育政策課長 説明

教育長 こちらについてはいかがでしょうか。

 これは市の規程にそのまま載せ替えられるということですが、よろしいですか。

 （「異議なし」の声あり）

教育長 それでは、議案第8号について承認といたします。

<議案第9号> 松本市教育委員会の所管に係る松本市公共施設案内・予約システムの利用等に関する規則の一部改正について

教育政策課長 説明

教育長 ご質問、ご意見はありますか。

 これまでは公共予約システムで予約できなかったのですか。

教育政策課長 今回学校施設が加わることで内容を見直している中で、本来なら最初から入っていないければいけなかった内容を追記しました。

教育長 よろしいでしょうか。

 （「異議なし」の声あり）

教育長 それでは、議案第9号について承認とさせていただきます。

<議案第10号> 学都松本推進協議会設置要綱の廃止について

教育政策課長 説明

教育長 基本的な業務は、条例設置の社会教育委員が引き継いでいくということですが、何かご意見ありますか。よろしいですか。

 （「異議なし」の声あり）

教育長 それでは、議案の第10号については承認としたいと思います。

<議案第11号> 松本市立小中学校小規模特認校制度実施要綱の一部改正について

学校教育課学務担当係長 説明

教育長 ただいまの説明について、ご質問はありますか。

 制度導入時に「小規模特認校へ就学した日の属する年度の3月31日までの間」としたのは、年度途中で出られてしまうかもしれないと見積もっていたた

めなのですが、実際にはお子さんが続けて小規模特認校へ就学したいというご希望がほとんどだということを受けての改正となります。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、議案第11号については承認としたいと思います。

<議案第12号> 松本市立小学校及び中学校の通学区域外就学に関する事務取扱要綱の一部改正について

学校教育課学務担当係長 説明

教育長 これについても議案第11号とセットですので、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、承認としたいと思います。

<議案第13号> 松本市立学校の学校医等の委嘱及び報酬に関する規則の一部改正について

学校教育課学務担当係長 説明

教育長 ご質問、ご意見ありますでしょうか。

福澤委員 診療科によって報酬が違うのは、何か理由があるのでしょうか。

学校教育課学務担当係長 診療科によって隔年で行うものもあり、勤務いただく頻度や回数によって、多少の差があるのご理解いただければと思います。

教育長 ほかにはどうでしょうか。よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、議案第13号については承認としたいと思います。

<議案第14号> 松本市教育委員会と長野県教育委員会との教員出向に関する協定の締結について

学校教育課学務担当係長 説明

教育長 ただいまの説明に対しまして、ご質問はありますでしょうか。

小柳委員 出向してきた先生のいたところに補充はされるのでしょうか。

教育長 行革上1名増の配当として、県が今回配置をしていただきます。

知事と中核市長との協議・懇談の中で、特別支援学校の運営を中核市も検討

してほしいというご提案があって、臥雲市長としても公約にうたっていることなのでやっていきますという話からスタートしたので、今回県の人件費負担ということになっています。

これについてはよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、承認としたいと思います。

<議案第15号> 松本市学校給食実施規則の一部改正について

学校給食課長 説明

教育長 こちらについては今までご協議いただきましたので、最終的に整えた整理ということで、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、第15号は承認としたいと思います。

<議案第18号> 松本市青少年ホーム条例施行規則の制定について

教育政策課長 説明

教育長 「教育委員会」を「市長」に改めた以外に変更はないということによろしいでしょうか。

教育政策課長 はい。

教育長 新しく定める規則についても教育委員会に協議してもらい、改定されていないか点検をする機会を設けるという趣旨ですよね。

行政管理課総務・行革担当係長 そのように理解をしております。

教育長 それでは、よろしいでしょうか。

特に規定も変わらないということで、議案第18号については承認としたいと思います。

<議案第19号> 松本市青少年ホーム条例施行規則の廃止について

生涯学習課長 説明

教育長 先ほどのものがそのまま教育委員会規則としてありますので、4月1日付けで廃止ということによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、議案第19号についても承認としたいと思います。

<議案第20号> まつもと文化遺産の認定について

文化財課長 説明

教育長 ご質問、ご意見ありますでしょうか。

福澤委員 まつもと文化遺産のような面的なものは、非常に観光との親和性も高いと思いますので、市長部局に行っても、ぜひ松本の魅力として発信をしていただければと思います。

教育長 まつもと文化遺産の市民への周知や広報は、どのように行っているのでしょうか。

文化財課長 ホームページで紹介しているのと、今年度今井地区の文化遺産のバスツアーを企画した際はSNS等での周知ですとか、あるいは現地見学、数年に1回のフォーラムを開催したこともございます。どちらかという地味な印象のある部分ではありますけども、引き続きそういった形で周知をしていきたいと考えております。

教育長 今の福澤委員の意見を聞いて思ったのですが、インバウンドで日本古来の文化体験を好んで来られる方は、いわゆる日本観光の王道ではないところも好まれると聞いていますので、せめて英語表記をホームページで一緒に発信するなどの工夫をしていただければと思います。虚空蔵山周辺は本当に素晴らしい文化遺産がありますので。

ほかにはよろしいですか。

では、こちらについては承認としたいと思います。

<議案第21号> 松本市文化財審議委員会の組織及び運営等に関する規則等の廃止について

文化財課長 説明

教育長 ご質問、ご意見ありますでしょうか。

福澤委員 この(1)・(2)の規則については、先ほどまでのような市長からの制定についての協議はないのでしょうか。

教育長 教育機関というものに位置づけられていると、市の規則を定める際に、教育委員会に協議しなければならないと書いてあるのですよね。

教育政策担当係長 地教行法の第33条第3項に、第23条の第1項で定める社会教育機関を市長部局に移管するときには、管理運営の基本的事項についての市の規則をつくって教育委員会に協議しなければならないと定められていますが、文化財のことについては、市の規則を定めるときに教育委員会の意見を聞かなければならないという定めがありません。

教育長 第23条第1項には該当しない。

教育政策担当係長 該当しないということです。

教育長 文化財の保護に関しては、「文化財審議委員会」が新たに条例で設置されて、文化財の保護に関して市長に「建議」できるというこれまでにない規定も設けられているので、そこで担保がされているということだったかと思います。

それでは、承認ということでよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、議案第21号については承認といたします。

<議案第22号> 松本市立博物館条例施行規則の制定について

教育政策課長 説明

教育長 条例施行規則の中身としては、「教育委員会」から「市長」に改めた以外に内容の変更はないということです。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、議案第22号についても承認としたいと思います。

<議案第23号> 松本市立博物館条例施行規則の廃止について

博物館長 説明

教育長 よろしいでしょうか。同じ内容を載せ替えるということですね。

博物館長 はい。

教育長 それでは、承認ということでよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 議案第23号についても承認としたいと思います。

<議案第24号> 松本市立小学校、中学校及び幼稚園職員等の勤務時間等に関する規程の一部改正について

学校教育課長 説明

教育長 ただいまの説明に対して、ご質問はありますでしょうか。

これは県から通知があつて、共通して規程を設けるようにということですね。

学校教育課長 はい、そうです。

教育長 教職員のフレックスタイムは、学校現場で現実的に可能なのでしょうか。

小柳委員 どこかが手をつければ、右へ倣えするのではないのでしょうか。

福澤委員 そもそも先生方は、1日の労働時間が決まっているのか、週ないし月の労働時間が決まっているのか、例えば1日8時間のフレックスなのか、週40時間のフレックスなのかで変わると思うのですが、どうなっているのでしょうか。

学校教育課長 今回のフレックスタイム制は、例えば1か月だったら1か月の総労働時間をまず定めて、その中で「コアタイム」という必ず学校にいないといけない時間と、「フレキシブルタイム」という自由に個人が設定できる時間を設けて、その総時間の中で調整ができる制度です。今回、県が県費の教職員にも導入するというので、規程を整えるよう通知が来た状況です。

小柳委員 現状と私の感覚がずれるかもしれませんが、給食を準備するときの時間が、先生方にとっては曖昧だと思います。先生方は子どもと同じものを食べなければいけないこともあつて、「給食指導の時間」は勤務時間なのか休憩時間なのか曖昧さを残している部分がありながら、フレックスタイムが導入できるのかなという思いはあります。

教育長 私も1年目に学校訪問したときに、校長先生から昼食の休憩の扱いについて質問を受けたので、県の義務教育課に聞くと、服務監督は市町村ですから市町村で判断してくださいと言われました。でも、特に小学校では「給食指導」と言いますよね。先生方は一緒に食べて見守ったり指導したりしていると思います。この点は、次期教育長に引き継いでいきたいと思います。

それでは、第24号は承認ということによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 ありがとうございます。

<報告第1号> 令和7年松本市議会2月定例会の結果について

教育政策課長 説明

教育長 ご質問、ご意見ありますでしょうか。

まちなか図書館についてご質問された菊地議員さんは、図書館未来プランをつくる前の、中央図書館の在り方検討会のメンバーだったこともあって、思いもおありだということでもあります。

報告についてはよろしいでしょうか。

では、承認としたいと思います。

<報告第2号> 令和6年度教育委員会各課事務事業報告について

教育政策課長 説明

教育長 6年度は文化財課も博物館も入っているので、市長部局に行っても、改善方針も含めて、9月に議会報告するということですよ。

教育政策課長 はい。

教育長 それでは、説明については、全てではなく簡潔にお願いできればと思います。

<報告第2号> 令和6年度教育委員会各課事務事業報告について（教育政策課）

教育政策課長、教育研修センター長 説明

教育長 ご意見、ご質問はありますか。

佐藤委員 寺子屋事業に関して、団体も増えてきていて、ぜひ継続していただきたい取り組みだと思うのですが、先ほどご報告の中であった課題と方向性のところで、各種既存団体と寺子屋先生とのマッチングが難しい現状の背景について教えていただけたらと思います。

教育政策課長 既存団体はメンバーが決まって立ち上がっているところが多いので、そこに人材バンクとして個々にお問い合わせしている方をつなぎにくく、人が足りないという要望も少ないため、人材バンクの方がそのまま動かずにいるという状況です。

教育政策課主査 実際に寺子屋先生・サポーターの方をお連れしてつながったケースもいくつかありましたが、うまくいかなかったところもあり、教育支援センターや児童センターなどにもつなごうと思ったのですが、うまくマッチングできず本当

に難しいと痛感しました。

佐藤委員　きっとそのような事情はあるのだろうと想像していましたが、難しいのはよく分かりつつ、今後、人が足りないくらい活動が拡大していき、せっかく手を挙げてくださった方がうまく活用される形になればいいなと感じました。

教育長　4年目になりますが、ずっと共通した課題だったと思います。マッチングしようとしてもなかなか受け手側と求める側とが合致しないのは、どこかに原因や根本的な意識のずれなどがあるとすれば、せっかく手を挙げていただいて、研修センターの先生に面接までしていただいて登録をしてもらっているので、そのお気持ちを何とか生かせるような仕組みを工夫して考えていただけたらなと思います。

例えば、11か所でよく頑張っていたでいて立ち上がってきたと思いますが、地図の中に落とし込んで空白のところ、家庭的背景で難しい家庭が多い地区などに、松本市が直営的に寺子屋を立ち上げて、そこに登録していただいた方の中でなっただけそうな方を送り込むという形でもいいのかなと思うのですが、大胆な見直しが必要な時期に来ているのかなと思いました。

小柳委員　引き続き来年度もぜひ研修事業については充実を図っていただければありがたいと思います。魅力ある講座がたくさんあるので、先生方にたくさん参加してもらいたいと思います。先生が勉強している姿を子どもが見るのがいいなと思っていますので、よろしくお願いします。

春原委員　毎月リーディングスクールの報告を楽しみにしています。その内容から充実した授業の様子が想像できます。更に教員の資質向上、定着を図っていくためには充実した研修は不可欠だと思います。積極的に研修・講座に参加しやすいシステムがあるといいと思いました。

福澤委員　先般、教育文化センターで行われたリーディングスクール・フェスで、リーディングスクールに関わる先生が非常に生き生きと楽しそうに発表されているのを見させていただいて、そういった新たな学びへの取組みにチャレンジされている先生方の輪が広がって、自分がチャレンジしたことが現場に活かされて、現場が良くなって、子どもたちがより輝いていくというのを多くの先生に体験してもらって、より松本の学びが「子どもが主人公」になって、さらに良くなっていくことを期待して、本当に良い取組みだなと思いました。

教育長 先日、松本に移住をした方のアンケート調査を見まして、その中に両方の意見がありました。探究の学びに挑戦している学校がとても良い学びをしてきているのがよかったと評価してくれている方と、ほかに比べると少しまだのところがあるという方と、両方の意見があったので安心したのですが、そういった外から来た方の声を調査するのも良いのかな、外から来た方の率直な感想も大事だなと思いましたので、参考にさせていただけたらと思います。

それでは、教育政策課についてはよろしいでしょうか。

ありがとうございました。

<報告第2号> 令和6年度教育委員会各課事務事業報告について（学校教育課）

学校教育課長、教育監、学校施設担当課長 説明

教育長 ご意見、ご質問を受けていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

こうして見ると、学校教育課は本当に頑張ってくれたと思います。

佐藤委員 本当に幅広い部分を、時宜に合った形で、また必要に応じていろいろな課題に向かって対応してくださっていることに改めて感謝したいと思います。

春原委員 本当に幅広い分野で、特にいじめ・不登校に対して、県・市全体の動きの中で松本市としての方向性が綿密に組み立てられていて頭が下がります。

ここには出てきませんでしたが、毎年実施されている全国学力テスト・学習状況調査の結果をどのように利用し、授業改善につなげていくべきかを考えていただければと思います。

小柳委員 先生方の負担を軽くするという意味合いや、科学的な見方を持つということで、いろいろな機器を導入した心の健康観察などは大事だと思っています。

一方で、先生方は目の前の生の子どもたちから受け取る感覚も併せ持って、きちんとやっていただきたいと思います。

I C T機器に不得意な先生方は、そういうものがない時代に生の子どもたちと接して経験値を上げてきていますので、そういう経験値を若い先生方が吸収して、なおかつI C T機器で得た客観的なデータを組み合わせ、ミックスしていく形にしてもらいたいと思います。どちらかに偏ると妙なことになると思います。いずれにしても、ぜひ引き続き7年度にもつなげていてもらいたいと思いました。

福澤委員 先ほどから各委員さんからもありましたが、非常にアナログな心の部分から、ICTやDXといったデジタルな部分まで幅広い領域を担っていただいて、いろいろな取組みが大変だと思うのですが、ありがとうございます。

その中で、丸ノ内中学校の改築事業について、プロポーザルで事業者が決まって、1回目のワークショップということですが、来年度以降もこういったワークショップがあるのでしょうか。昭和のモデルスクールから令和のモデルスクールへという話を以前伺った気もしますので、生徒が減っていく中、多額のお金をかける事業に対して、市民の皆さんの思いをどれだけ組み入れることができるか、もちろんそこに通う子どもたちは当然ですけれども、そういったところまで次年度以降もしっかりとしていただければなと思いました。

学校施設担当課長 ワークショップにつきましては、第1回目を来週やらせていただくのですが、皆さんにわくわくして参加いただけるような、2回目もぜひ来たいというワークショップにしたいと考えています。今のところ、全部で4回から5回ぐらいのワークショップを継続的に行っていきまして、地域住民の皆様のお声を聞き入れて反映させていきたいと思っています。

教育次長 福澤委員がおっしゃったように、いかに市民の声を反映させていくかというところでワークショップをやっていくと思うのですが、この施設を学校の生徒や教職員だけで使うわけではなくて地域の皆様も使うということで、そういった意見も十分に取り入れながらやっていきたいと思っています。

教育長 ワークショップをしてから基本計画という骨子をまとめて、議会にお諮りをしてから設計に入っていくことになります。なので、途中で教育委員会にまた報告をさせていただくことがあると思いますので、よろしく願いいたします。

最後に私から、こうして俯瞰的に学校教育課がしていることを見してみると、学校教育課で行っている全てのことは、ほかの課や教育委員会内のいろいろな業務と密接に関連しているものが多いと思います。学校教育課だけでできる業務はどちらかというと少なく、より横のつながりを大事にしていかないと解決できないことがたくさんあったように思うので、来年度以降も、所属長だけではなくて一担当者もそういった視点や意識を持って取り組んでいただければありがたいなと思います。

それでは、学校教育課の部分についてはよろしいでしょうか。

ありがとうございました。

<報告第2号> 令和6年度教育委員会各課事務事業報告について（学校給食課）

学校給食課長 説明

教育長 では、説明に対しましてご質問、ご意見をお願いします。

春原委員 子どもたちのために最善を尽くして、皆さん働いていらっしゃると思いますけれども、この自己評価が「C」ということに関して、今お聞きしていると、アレルギー対応で事故を起こしたためということですが、目標が達成できなかったという意味から、そのようにつけられたということなののでしょうか。

学校給食課長 そうですね。令和3年度にも同じように誤食がありまして、そのときに「C」という評価をしていたので、今回も「C」とさせていただきます。

春原委員 「C」とまでいなくても良いのではないかという思いですが、学校訪問で給食状況を見せていただき、各センターどこも日々精いっぱい対応をされていると思います。事故が起こった後の適切な処理も含めて少し厳しいですよ。緩和しても良いのではないかと思います。

佐藤委員 改めて、これは何段階評価でしょうか。

教育長 3段階です。

佐藤委員 A、B、Cの最後をつけられたということで、たしかに過年度との評価とブレてはいけないというところがあるかもしれないですが、過年度はアレルギー対応のこのみで「C」でしたか。

学校給食課長 そうです。

佐藤委員 一方で、ほかの目標が達成できて、その1点のみで「C」というのは、改めて考えると厳しいかなという思いも、内部で甘いのはいけないとは思いますが、それ以外の部分の負荷がかなりあると思うのですよね。様々なものが高騰している中で給食費改定の対応をされていたり、過年度にはなかった有機無農薬の給食提供とか、課題にかなり取り組んで改善されているので、そこを踏まえると「C」よりも良い評価でもいいのかと思っています。

それから質問なのですが、滞納者が非常に多くて、卒業や転居された後でそれを追うのは大変なご苦労だと思いますが、臨戸による催告は市の職員が直接行うのでしょうか。外部に委託せず、職員さんがされるのは無理があるのでは

ないかなと思って質問させていただきました。

学校給食課長 滞納整理員はいなくて、職員が直接伺っております。西部センターの職員が実際に回っております。

佐藤委員 それは何ともならないのですよね。

学校給食課長 収納率も高めなければいけないので、今後どうしたらよいか検討していかなければいけないと思っています。

佐藤委員 通常業務もきつと大変である中で、なかなか難しいなと思いました。

小柳委員 私は、この自己評価の「C」は尊重したいと思います。安全で安心な給食の提供を学校給食課は最低限のところに敷いていて、そこが崩れたらもう「C」なのだと考えていると思います。安全で安心な給食の提供が確保された上で、地産地消、食育などがオーケーならばB、Aとなるという感覚でいるのだと思います。非常に厳しい職場だと思いますが、私は自己評価を尊重したいと思います。

福澤委員 これだけいろいろな目標を達成されたり、活動されたりしているのを見て、私も自己評価「C」はどうしたものかなと思ったのですが、課長のお話を伺って、前回はCの評価をされたということで、確かに令和3年にあったのにまた令和6年に起きてしまったことは、しっかりと振り返らなければいけない部分ですし、今後こういったことを起こさないというしっかりとした思いを込めての最後のCだということを期待して、この自己評価はとても厳しいですが、しっかりと引き継いでいただきたいなという気がしました。

ただ、私も給食の生産者さんのお声とかをSNSで見たのですが、作り手の方が、実際食べている子どもたちを見てうれしかった気持ちを純粋に表現されていたり、地元の生産者と子どもたちがつながることによる食育につながったり、とても良い取り組みだと思いましたので、ぜひそういうところも積極的に進めていただければなと思いました。

教育長 物価高騰の対応という結構大変なこともやっていただいたこともありますし、長野県産食材使用割合の目標30%に対してかなり上回っているというのは、生産者拡大を学校給食課が自ら積極的に取り組んでくださった、調理の方たちも、多少ふぞろいのものがあっても、生産者の気持ちと子どもたちに食べてもらいたいという気持ちに取り組んでくれた、そのことは高く評価ができること

だと思います。

だけど、令和3年度にもあったのに今回起こしてしまったことでということであれば、それを評価の理由の最後に、このように上記4点では目標を上回る結果が出ましたが、子どもたちの食の安全を守るという点で、事故を起こしてしまったので評価については「C」としましたと、一言書いておいたらどうかと思います。これは点検評価委員に見てもらうことになりますので。

春原委員 地産地消の推進が良い方向に一歩一歩進められているという感想を持ちました。目標としている30%以上、この2月には46%を達成したということで、難しいところもたくさんあると思いますけれども、松本産で動かしていったいただければと思いました。

教育長 では、学校給食課はよろしいでしょうか。
ありがとうございました。

<報告第2号> 令和6年度教育委員会各課事務事業報告について（生涯学習課）

生涯学習課長 説明

教育長 ご質問、ご意見はありますか。

佐藤委員 今ご報告いただいた取組みの中で、高齢の方だけではなく、若者の居場所づくりに大きくかじを切られているところがとても見えてきて、良い取組みをされているなど思いながら拝見していました。

この報告とは違う視点になってしまいましたが、公民館運営審議会のメンバーの中にも若い方が入ってきたらいいなと思います。松本に愛着を持ってもらうためにも、また居場所を学校・家庭以外に持ってもらうためにも、公民館がこういう形で活用されていって、さらに学校とのつながりもコミュニティスクールを中心に強く持てていることを報告の中で拝見しましたので。

生涯学習課長 公運審については来年度見直しの年になりますので、若い人もということで意識しながら、また考えていきたいと思います。

小柳委員 公民館活動は今後どうなっていくのか、なかなかイメージしづらいのですが、概要にある「住民ニーズに合った公民館活動を展開」という、この住民のニーズを掘り起こしていくのが大事なところだと思います。各地区の公民館で住民ニーズを掘り起こしていったときに、若者のニーズは何だろうとか、10代の

ニーズは何だろうというように、年代ごとのニーズを掘り起こしていくことが大事ではないかと思います。例えば、自分の地域では、中高年の女性を対象とした「おかんの体操教室」などを毎月やっていて、それが住民のニーズなのだろうとは思いますが、さらにこの年代の方々のニーズの掘り起こしをもっとしていくことも今後は必要だと思います。

春原委員 公民館活動は、住民の自主的な要望によって様々な目的が含まれているのではないかと思います。公民館活動の一つとして、例えば「地域の文化・歴史を巡る」をテーマに子どもから大人まで地域の魅力を発見しながら住民同士の交流が深まればいいのではないかと思います。子どもたちの興味を捉えるきっかけとなるかもしれないです。

福澤委員 池上百竹亭はせっかくの良い施設なので、インバウンド向けの茶道体験とか、教育委員会の施設ではありますが、時代に合わせて活用ができればいいかなと話聞いて思いました。

あと、公民館と若者のつながりについて、部活動の地域移行の受け皿、新たな場所としての公民館活動の在り方にもぜひ積極的に取り組んでいただくという感想です。

それと、ハタチの記念式典について、新聞の記事を読んでいて、ハタチの記念式典は出身校ごとに座るから、学校になかなか行けなかった子は行きづらい、行けないとコメントをしていた子の記事を見て、そういったことへの取組み、例えばその学校が呼ばれていない、前半か後半のどちらか別の会でとか、一緒になるのがつらい子たちであれば、そういった配慮をした取組みが必要なのかなと思いました。

教育長 改めて公民館が若者まで視野に入れて、いろいろなことに挑戦していることをとてもうれしく思っています。先ほど冒頭で申しあげた議会からの指摘事項に関連するのですが、博物館と文化財課が市長部局に移ると、教育委員会に残る社会教育機関が図書館と公民館になるわけです。なので、公民館と図書館は意識をして、市長部局の芸術文化や文化財やまちづくりと連携した事業を、どんどん公民館と図書館から仕掛けていってほしいなと思います。市長部局に行ったからといって営利目的だけになるかということ、そんなことはないと思っています。今年皆さんが学都松本推進事業でやってもらっているように、横の連

携を引き続き意識して、松本の可能性を質的にも量的にもどんどん広げていていただければいいなと思います。

そういった意味では、公民館というのが松本市の財産でもあると思います。公民館主事研修会の報告書を月2回ぐらい上げてもらっているのをいつも見ていますが、本当に真摯に職員のみんが勉強し合っているのも、こんなにそれぞれの機関に若い正規職員を一人ずつ配置して取り組んでいるところは、ほかの自治体を見てもそんなにかないかなと思います。ぜひこのことを生かせるようなリーダーシップを廣田館長に期待したいと思います。

それともう一点、デジタルディバイドのことがありました。学習の担い手を公民館職員が担ってしまっているのも、地域住民による人材育成に向けた事業を展開しますとあるのですが、できたら例えば高校生、場合によって中学生のほうがどんどんできると思います。中学生のアルバイトは難しいかもしれないけど、高校生で、例えばバイトを禁止している高校でも、市の事業に協力してくださいという形で高校生サポートみたいな人をつくって、何かあったときに困っている人を助ける協力をしてくれたら月に1万円ぐらい払いますよとか、そんなこともあったら世代がつながる良いきっかけになって一石二鳥ではないかなと思いました。

ということで、引き続きよろしく願いいたします。

<報告第2号> 令和6年度教育委員会各課事務事業報告について（中央図書館）

中央図書館長 説明

教育長 どこからでも結構です。ご意見をお願いします。

佐藤委員 今年度ライブラリレーに一度参加させていただいて、とても楽しませていただきましたし、市民タイムスなどを見ているのも、本当によくいろいろなアイデアを出されて新しい試みに取り組んでいらっしゃると感じています。サードブック事業に至るまでのところもそうですが、学びの基本にある読書の習慣を、これからも松本市の中で広げていただけるような取組みがさまざまあると良いなと思いますので、今年度のこの評価も含めて、今後にも期待しております。

福澤委員 私もライブラリレーにお呼びいただきましてありがとうございました。大規模改修への取組みについて検討をいただいているということで、図書館と

いうのは教育委員会の管轄であるということから、まちなか図書館も最近また新聞に出てきていますが、教育的な視点で、市民に愛される図書館の在り方を、ぶれずに進めていただきたいなと思いました。

春原委員 私も図書館へ足を運びたいという気持ちがこのところ増えてきました。図書館の基本理念「出会う つながる ガク都の広場」のもとで継続して動いていると思いますが、身近な図書館として利用するという気持ちが市民の中で湧き上がってくれば、いろいろな意味で発展的にいくのではないかなと思います。

それと、村井駅と四賀のサービスポイントの状況を教えてください。

中央図書館長 村井に比べますと四賀のほうが利用は少ないのですが、定期的な同じ方が利用していただいているような状況です。村井駅は1か月当たり600～700冊ぐらいの貸出しがありまして、1日平均にすると約30冊です。四賀は少し少ないのですが、1か月当たり60～80冊ぐらい本を借りていただいています。予約をしていただいて、受取場所に村井駅と四賀公民館図書室を指定していただくのですが、毎日必ず予約された本が用意できるのを待っているような状態で、皆さんよく利用していただいていると思います。村井駅については学習スペースも併設していますので、席は33席ありますが、土日や試験前はほぼ満席近く埋まっているような状態です。年末年始も12月31日も1月1日も利用されている方がいて、お子さんたちにも定着して使っていただけているのかなと考えています。

小柳委員 先ほどの議会報告にもありましたが、まちなか図書館について、「松本市図書館未来プランに基づく事業の推進」の中に、具体的な進め方として「まちなか図書館設置検討の取組実施」とあります。令和7年度に向けて、まちなか図書館設置検討の主なポイントがわかれば教えてくださいと思います。

中央図書館長 まちなか図書館につきましては、今、中心市街地再設計検討会議で中心市街地をどうしていくかが検討されており、今月そちらの提言があるということですので、その提言内容を踏まえまして、松本の中心市街地にはどんな図書館が必要なのか、求められているのかを、今後市民の皆さんも含めて検討していかなければいけないと思っております。令和6年度は市民の皆様にも少し関心を持っていただけるように、1月24日に有識者の方をお招きしまして、全国の先進的な図書館の事例を公表していただくトークイベントを開催させていただ

ています。

小柳委員 令和7年度は実態を踏まえながら、作るか作らないかを含めてスタート段階ということでもいいですか。

中央図書館長 そうですね。全く候補地がどこにあるという状況ではないので、検討をするという段階です。

小柳委員 まちなか図書館は設置するという前提は変えないということでもいいですか。

中央図書館長 そうですね。それについては検討していきたいと思っております。

教育長 よろしいですか。先ほど公民館のところでもお話したのですが、博物館と文化財課が市長部局に行くということで、今年も図書館は、いろいろな芸術文化と学びをつなぐというのを公民館とタイアップしてすごく頑張ってもらいましたが、今後もぜひ教育委員会に限らず、市長部局のいろいろな課にターゲットを当てて事業を行っていただければと思います。

それから、今、国の「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議」に出ているのですが、前回のテーマが「アクセシビリティ」で、より幅広い対象者を視野に行っていく必要があるということでした。松本市図書館の蔵書だけでできることは限られていますので、ぜひ「デジとしょ信州」などと結ぶようなことを、例えば障がい福祉課と連携をして、対象者に積極的にピンポイントでご案内を出していくことで、障害のある方がいろいろなツールを使って読書の楽しみを享受できるような取組みもしていただければありがたいなと思います。

これについてはよろしいでしょうか。

引き続き頑張りたいと思います。

<報告第2号> 令和6年度教育委員会各課事務事業報告について（文化財課）

文化財課長、城郭整備担当課長、文化財課課長（西部4地区担当） 説明

教育長 ありがとうございます。どこからでも結構です。

小柳委員 報告の中に「情報発信」という単語がたくさん出てきて、私も情報発信は大事だと思っていますが、情報発信にはお金がかかると思います。しっかり予算を確保していただいて、多様な方法で情報発信に挑戦してもらえたらなと思います。市民の皆さんに文化財を知ってもらわなければ、興味や関心も引け

ないということで、今までもきちんとご努力されて情報発信をされていることは重々承知で、なおかつさらにお金をかけて情報の発信をしてもらえたらと思います。

春原委員 「国宝松本城」が日本全国から注目され、世界遺産登録を目指していただきたいと思います。

福澤委員 今年度も何度か説明会に行かせていただいて、とても勉強になるというか、知らなかったことがいっぱいあったなという気づきを得ました。来年度以降もこういった学びの部分は、これまでと変わらず、さらに積極的に発信をしていただいて、市民の「知りたい」に応えていただきたいなという気がしました。

それと、上高地は特に観光という目線で見られることが多いのですが、そもそもあの一帯が文化財であるということで、観光でお金を稼ぐことは場所としては最優先かもしれませんが、これからは歴史的な部分、文化財として価値のある上高地をしっかりと広めていただいて、将来の構想との両立が良い方向に進むことを願っています。

佐藤委員 私もフェイスブックで「まつもとの文化財」をフォローさせていただいているのですが、本当にこまめに更新をされていて、これはどなたか決まった職員さんがなさっているのですか。

文化財課長 概ね2名程度の職員が、ほかの職員から集めたり、自分でも取材したりして投稿しています。

佐藤委員 本当にいろいろな写真や目を引くものを集めていただいていて、ぜひ継続していただきたいなと思います。

それから中央図書館その他担当部署と連携しながら、今年度もいろいろと取り組みをしてくださって、3の(1)の課題と方向性に「来年度以降も学校、公民館、図書館、博物館等と連携を図る」と書いてくださっていて心強く思います。引き続きよろしく願いいたします。

教育長 情報発信を本当に丁寧にやってくださってありがたいと思います。先ほど小柳委員から予算の話がありましたが、確かにSNSが良いと思いますが、例えば松本城に行ったときに、今は「太鼓門からどうぞ」という立て看板もあって、あのような見た目の良い看板などは、予算を取ってでもやる必要があると思います。今回、実は博物館の解体工事に伴って、白い無機質な壁が並んでいると

ころに、史跡整備のことが分かる表示をということで、補正を取らずに既決予算の中で取り組んでもらっていますが、うっかりしていたなと思いました。

やはり松本城を中心に、インバウンドで来ている外国の方にも松本の魅力を絵で見て理解していただけることを、いろいろな角度から視点を変えて発信できれば良いなと思います。

私としては、市長部局に行っても、「観光の主流は文化財課がつくる」という気概を持って取り組んでいただきたいと思います。「歴史文化が好きだから松本に観光に行く」となるように、よろしくお願いいたします。

<報告第2号> 令和6年度教育委員会各課事務事業報告について（博物館）

博物館長 説明

小柳委員 年間何回も企画展を開催しており、オープンしたものをフル活用している姿が見られて、本当に努力に感謝しております。予算はきつとかかるでしょうが、今後もどんどん継続して開催してもらえたらありがたいと思いました。市民の参加もさることながら、観光の方々の動線に乗っていくことも考えられていると思うので、ぜひその辺も含めて活動を充実させてもらいたいと思います。

春原委員 特別展や企画展のイベント等のPRに一工夫をしていただければと思います。博物館のオープンを知らない市民もいます。ガク都松本で暮らしている私たち市民にとってはとても嬉しいことです。

福澤委員 昨年のB評価から今年はAに上がったことをうれしく思っております。

先ほど教育長からもありましたが、私も博物館の解体現場の白い壁が殺風景だなと思っていたので、対応いただけるということでありがたく思います。

1点質問ですが、何を解体しているのかが分かる内容も、今回の展示には含まれるのでしょうか。

博物館長 松本城の全体的な工事内容を示すものが1枚と、もう一枚は、将来的に博物館が解体された後やお堀が復活した後などをイメージ図として載せています。外国の方にも分かるように英語と日本語と併記して、あまり長い文章ではなくて端的な文章で、お城の工事の全体像が分かるような内容になっております。

福澤委員 ぜひ来年度以降、観光的視点で、社会教育施設の連携や文化財課のまつもと文化遺産との連携など、観光で持っている豊富な情報発信予算を施設のPRに

可能な限り使っていただいて、観光との両立と、文化財としての価値を、より多くの皆さんに知っていただくことを望んでいます。

佐藤委員 常設展のみならず企画展、特別展も松本らしさが前面に出されていて、市民の協力もあるところがとても良い点だと思っています。

今年度の報告には上げられないと思いますが、1階の活用、特にカフェやショップは観光客による売上げもあると思いますし、いろいろなスペースをお借りすることができると思っている市民が少ないのではないかと思います。私も一度活用させていただいたのですが、ランドマークで分かりやすい場所ですし、博物館で、ガラスの外からも見えるようなイベントが、いろいろな団体が活用してなされると良いなと思います。サポセンとの連携では活用されて良かったのですが、よりオープンスペースが市民も活用できる場として周知されると良いなと思っています。

教育長 今回の人事案件で2人の議員から、令和3年の組織改正で美術館を市長部局へ移管したときに、私が「博物館は教育委員会にあるべきだと思う」と答弁したことと、今回「博物館と文化財課が市長部局に行ってもまちづくりと連動してできるのではないかと答弁したことについて、整合性がとれていないと指摘されました。でも、この間にあった大きな出来事として、令和5年4月に改正博物館法が施行されて、博物館の事業に、よりまちづくりや産業振興と結びついて、まち全体を活性化していく役割が博物館には持たされたということをもっとアピールしていったほうが良いと思います。私も全国博物館大会で、松本の「まるごと博物館構想」でやってきたことを話しましたが、「まるごと博物館構想」は20年前なのに、改正博物館法に書かれたことを既にやっていたんです。なので、松本の中で博物館が果たしてきた役割を改めてアピールしてもらいたいと思いますし、先ほど文化財課にも言ったように、「松本の観光は歴史文化がリードしていく」という気概を持って、どんどん行ってほしいと思います。

そして一言、今の言葉と相反するようですが、本館のショップを何とかしてください。博物館の分館に行くときらりと光るセンスの良いグッズがいっぱいあるのに、なぜ本館はあんなに薄っぺらいのかと何回も言っているのだから、指定管理者だけに任せないで、学芸員さんたちや館長のお力で、おうちアソ

シエイトプロデューサーのお力も借りながら、ぜひ改善をしてもらいたいと思います。

春原委員 大手門の大型バス専用駐車場は、松本城・博物館等を見学される団体専用の駐車場であろうと思います。博物館から徒歩数分という隣接している位置と考えれば、付随する価値として一考を要するという思いもします。

福澤委員 入口のキッチンカーなどの取組みも、回遊性の点では良いと思うのですが、本当にあの場所でやらなければいけないのかはきちんと考えていただきたいなという気がします。あそこで古くから商売をされている人もいますし、三の丸で商売をやるという矜持を持ってご商売をされている方々がいる中で、本当にこのキッチンカーで良いのかと疑問に思うことがあります。

博物館長 キッチンカーについては、指定管理者が自主事業としてやっているのですが、当初は派手なポップのキッチンカーが出ていたこともあって市民の皆様からご指摘を受けたこともあり、今は、指定管理者にキッチンカーの出店に当たっては、大名町のほかの業種とかぶらないもの、博物館の雰囲気壊さないものというオーダーを出していますので、意識してくれているとは思いますが。

教育長 損なわないものなどという消極的なことではなく、例えば、松本産のいろいろなものが買えるようになるとか、既存のキッチンカーではなくて松本の産業や農業と結びつける出店にするとか、踏み込んだ積極的な仕掛けを期待したいと思います。

それでは、よろしいでしょうか。

第2号の報告については、承認ということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 お疲れさまでした。

<報告第3号> 松本市教育委員会と松本市教育会との教育に関する連携協定に基づく事業実施について

教育研修センター長 説明

教育長 それでは、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

小柳委員 先ほど、将来力を発揮してもらえるとされる先生方の研修が充実して、連携によって資質向上につながるとても良い効果があったという報告がありまし

た。その意味では、連携が効果を示しつつあって良いなと思う一方、心配している点があります。本来、教育会は先生方が自分たちの力量を向上させていくという高い志を持って作った組織だと思います。教育研究が必ずしも市教委の目指すものと一致しなくても良いと思っています。研修も教育会が時代を読んで、必要とされている根源的なものを進めていけば良いと思っていますのですが、しかしこの文章を読みますと、市と連携することで、最も大切な命とも言える研修の企画は教育委員会がやり、駐車場や受付などをするのが教育会だという役割分担が見られます。教育会の持っている使命を投げうっているような気がしてしまいます。これらの意味において、松本市教育会の自立を私は今後も願い、長くこの会が継続していくことを願っている立場で、市との連携は賛成ですが、連携の協定を結ぶことには反対です。

次に、松本市教育会の組織について改めて見てみますと、人格を持たない社団であるということ、それから、会則第5条に、本会は信濃教育会に対してその組織体の1つとなると書いてあります。つまり、信濃教育会を構成する一組織であるわけです。とすると、市教委と連携協定を結ぶことには違和感があります。もっと誤解を恐れず言わせてもらおうと、信教の傘下にある団体との連携に違和感があるということです。

3点目は、第2条に事務所は松本市教育館内に置くと書いてあります。これは教文センターの一部を教育館というのだと思いますが、市から借りているのであれば年間の賃料を払わなければいけないし、もし教育館が教育会の財産であれば、税法上もっとはっきりとした法人でなければいけないのではないかと思います。

私は連携には大賛成ですが、連携協定を結ぶことについては反対だということで、昨年度申しあげました。今もその思いは変わりありません。ただここは報告で、協議をする場ではないので、感想として述べさせていただいたところです。長くなりました。

教育長 ほかの委員さん、関連したご意見はございますか。

福澤委員 松本市教育会というのは、松本にいらっしゃる先生全てが入っていらっしゃる組織ですか。

教育研修センター長 いえ、違います。自主的な職の向上団体ということで、自分で希望を

して加入する組織になります。

教育長 場所のことですけれども、教育会は、教育文化センターという公の施設の中の1室を、行政財産の目的外使用という使用許可の申請をして使用許可を受けて、お金を今まで払っています。ただ、教育活動であれば減免することができるという規定があって、ずっとお金をいただいていたのですが、環境団体も一室を貸してほしいとなったときに減免にできるということで、教育会もこの規定に基づくと本当は減免の対象だということで、今年から減免になっていると思います。

小柳委員 今後、改築した後も同じような対応をとるとのことですか。

教育長 同じだと思います。

小柳委員 減免ではなくて賃料を払ってもらってはどうか。

教育長 ただ、減免規定では対象になる団体なので、公平性という観点から減免にしたということですよ。

教育研修センター長 協定があるから独立性がなくなるわけでもないかなと、どんどん研修等を自主的に企画してやっていただければいいかなと思います。お互いに刺激し合って、ぜひ教育会とパートナーシップが取れたらと思います。決して独立性、自主性を軽んじようと、そういうことは全くないものでございます。

教育長 一昨年、研修センターができて全体研修会を開催したときに、先生方から、教育会が主催する全体研修と松本市でやる全体研修が1週間違って、「一緒にできないのですか？」というご要望がたくさん来ていたことがありました。そうしましたら次の年に一緒にやっていくということで、先生方もそのほうが良いし、協力して1 + 1 = 2ではなくて3ぐらいのことができるのではないかなということもあって連携協定の話が出たと思います。

市教委と必ずしも一致しないものはどんどん自主的にやっていってもらえれば良いと思います。連携協定はそれを縛るものではないと思うので、連携協定は、あくまでも独立した違う団体が連携できることは一緒にやって、効率化を図れるところは効率化を図りつつ、プラスアルファのものを生み出していこうという理念で双方がやっているならば良いと思うのですが。

小柳委員 私も連携は大賛成です。今までも松本市教育委員会とは連携をしてきていますし、今後もこの連携は大いに大切にしてほしいところです。ただ、私は、な

ぜここにきて「協定」を結ぶ必要があるのかという疑問があるということです。

教育長 教育会が連携協定を組織強化のために使っているかは分かりませんが、協定を結ぶことによって、連携協定に基づいてやっているということはあったほうが良いのではないかと思います。

すみません、先ほどご指摘があった信濃教育会の一組織などということは、教育会で判断していただくことなので、教育委員からこのような意見がありましたということを伝えていきたいと思いますが、これについては報告ということなので、よろしいでしょうか。

それでは、次の案件に移りたいと思います。

<報告第4号> 令和6年度松本市教職員研修実施報告について

教育研修センター長 説明

教育長 ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

佐藤委員 講師の方や支援員の方が受けられる研修が設けられているのですが、講師の方の参加7人というのは、受講率をどう見れば良いのか教えていただけたらと思います。

教育研修センター長 講師の方も千差万別でございまして、40代でばりばり教員としての力を発揮している方もいますし、今年なったばかりという方もいらっしゃいますし、全教職員が1,700名のうち300人くらいいらっしゃいます。ですので、受講率は正直高くはないです。

佐藤委員 宮内先生の研修とか、ぜひ講師の方にこそ受けていただきたいのかなと思いつつ拝見していました。

教育研修センター長 今年失敗したなと思うのが、昨年度は宮内先生の研修を9月に行いまして、それがとても良かったものですから、今年は4月にやったのですが、4月はまだ講師の先生たちが必要感をあまり感じていなかったのもので、来年から元に戻しました。

小柳委員 かつて県教育センターへ行って研修を受けていたところを、松本市でこういう研修をしていただくことで、より先生方が研修に臨む姿勢が出てきて良かったと思っています。ぜひ引き続き充実していただきたいと思います。

春原委員 本当に何の穴もなく充実させていらっしゃると思いますので、ぜひ教員の質

を高めるためによりしくお願いします。

福澤委員 数多くの研修をやっていただいて、ご準備等大変だったと思います。参加人数が少ない研修もありまして、講師の名前を見るともっといっぱい受けてくれればなと思うものもいくつかあるのですが、日頃の現場の仕事プラス研修活動になると、現場での余裕がないとなかなか難しい部分もあるのかなという気がします。両立という部分で何か改善できることがあれば教えていただきたいなと思います。

教育研修センター長 良い研修をたくさんの方が受けると学校がガラッと変わるということがありました。その学校は研修に参加するために研修日を設けて、子どもを帰して先生たちだけになる配慮をしていました。全部の学校がそれをするのは不可能ですが、学校現場と連携した形で進めていきたいと思っています。

年々増えておりますので、継続して研修の良さをアピールして、フィードバックを現場にどんどん返していくことを続けていきたいと思っています。

教育長 評価をすることでまた次につながるいろいろなことが見えてきたと思いますので、大変だと思いますけれども、ぜひ引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、報告第4号については承認としたいと思います。

<報告第5号> 令和6年度オンライン教育支援センターの利用状況等について

教育監 説明

教育長 ご質問、ご意見ありますでしょうか。まだ半年にも満たないですが、順調な滑り出しということでしょうか。

教育監 どこにもつながっていなかったお子さんが、たとえ42名でもこうしてつながれる場所ができて、オンラインで入ってくれていることがまずは成果かなと思いますし、また来年度以降、つながってくれた子たちの友達の輪で、それこそ「まつとも」が増えていくといいのかなと思っています。

福澤委員 2の(3)他機関の支援を受けての対応ですが、実際に利用につながった結果はあるのでしょうか。

教育監 いずれのケースも、機材の設定とオンライン教育支援センターの体験までは実施されましたが、その後、継続的な利用には至っておりません。

福澤委員 (5)その他で、新しい仮想空間が3月から4月中にということですが、既に一

度使えない状態になっているということでしょうか。

教育監 基本的にはそうです。構築し直しているようですので、何とか4月に間に合うように鋭意取り組んでいるところであります。

佐藤委員 以前、私たち教育委員も参加させていただいた不登校支援関係者懇談会は、継続して今後も開かれる予定でしょうか。

教育政策課長 次回は3月27日に開催します。福澤委員にご紹介いただいた大和田さんに今までのご経験をお話いただいて、フリースクールの方たちとディスカッションしながら進めていきます。もしご都合がつけば、いらしていただければと思います。

教育長 ほかによろしいですか。それでは、1年経ったぐらいで庁議や議会にも報告してください。よろしく願いいたします。

それでは、報告第5号は承認としたいと思います。

<議案第16号> 地区公民館長の任命について【非公開】

非公開案件につき内容省略

⇒ 承認

<議案第17号> 松本市学校運営協議会委員及び地域学校協働活動推進員の委嘱について

【非公開】

非公開案件につき内容省略

⇒ 承認

<報告第6号> 各種学校への補助金交付に関わる視察調査結果について【非公開】

非公開案件につき内容省略

⇒ 承認

<報告第7号> 松本市安曇資料館について【非公開】

非公開案件につき内容省略

⇒ 承認

《閉会宣言》

伊佐治教育長は、令和6年度第12回松本市教育委員会を閉じる旨宣言した。

<午後6時07分閉会>

会議録調製職員

教育政策課教育政策担当係長

伏見 宏美

会 議 録 署 名 委 員

福澤 崇浩

春原 啓子